

能代の縄文見て聞いて

貴重な遺物に感嘆の声

柏子所貝塚・麻生遺跡

能代市の市民おもしろ塾、県文化財保護協会能代支部など主催のイベント「柏子所貝塚・麻生遺跡の遺物展と関連講演」が16日、市中央公民館で始まった。遺物展では柏子所貝塚から出土した県指定有形文化財の骨角製品や貝製品、麻生遺跡から見つかった国重要文化財の土面のレプリカなど、普段目にするのができない約150点が陳列され、多くの市民、考古学ファンを惹き付けに。両遺跡と出土品について解説する専門家の講演も行われた。イベントは17日まで。

市民おもしろ塾きょうまで開催



普段は目にできない貴重な遺跡出土品が並ぶ市民おもしろ塾など主催の展示会（能代市中央公民館で）



土面（複製品）

国重文「麻生遺跡出土土面」のレプリカも展示

同市の柏子所貝塚（県指定中跡）は縄文晩期の遺構で、県内では9カ所しかない貝塚の一つ。昭和30、32、33年に行われた県教委と市教委による発掘調査で、縄文時代の土器や石器、骨角器、貝製品などが出土したほか、埋葬されたと思われる8体もの人骨が見つかったことでも知られる。

また同市二ツ井町の麻生遺跡は米代川と阿仁川の合

流地点付近に位置し、縄文晩期の土器、土偶などの優品が明治期に出土。大規模な発掘調査は行われていないが、東京大や東北大に資料が収蔵されている。遼光器製土偶の顔に似た東京大総合研究資料館所蔵の土製仮面は、昭和32年に国重文に指定された。

今回の遺物展は、一昨年秋に秋田市の県立博物館（県博）で開催された企画展「秋田の縄文遺産」で柏子所貝塚、麻生遺跡の出土品が陳列されているのを観賞した市民おもしろ塾事務局長の川添能夫さんが、「能代の子どもや市民にも見せたい、能代の文化遺物の価値をみんなで共有したい」との思いを抱き、県博や柏子所貝塚出土品を所蔵する能代市教委などと交渉。県博、市教委、県文化財保護協会能代支部との共催の形で企画を実現した。

会場の同館2階視聴覚室には、柏子所貝塚で出土した約100点、麻生遺跡で発掘された個人所蔵の約50点をそれぞれ展示。柏子所貝塚関連では、動物の骨や角などを素材にした織、釣り針、刺突具、加工痕が見られるクジラの骨、髪針、垂飾品などの装身具、ペンケイガイやカキの貝殻で作った貝輪（腕輪）とそれを磨くための砥石など、麻生遺跡関連は、土面のレプリカのほか鉢形、台付浅鉢形、壺形の土器、土偶、石槌類などがずらりと並ぶ。

午前9時30分のスタートと同時に多くの市民、考古学ファンが詰め掛け、各種展示品や解説板などを見て回った。中でも麻生遺跡の土器は、2千年前の当時の形を残している物が多く、来場者からは「すごいね」「技術も高度」など感嘆の声があふれた。

若い頃に柏子所貝塚の現地で人骨の発掘場所を見た経験もあるという市内の女性（82）は「県立博物館にも見に行ったが、たくさん遺物を改めて見ることができて感動。昔から人が住んでいた跡が能代の周辺の随所に残っていることは、市民としてうれしいこと」と語った。

遺物展は17日も午前9時30分～午後4時の開催。川添さんは「初日からたくさん

んの人に来てくれて感激だし、縄文遺跡というテーマに対し多くの人が関心を持っていることにも驚いた。普段は公開されていない遺物ばかりなので、この機会にぜひ多くの人に楽しんでもらいたい」と話していた。